令和６年の秋季講演会を開催

講演を通して安全・安心を呼び掛ける

熱心に聴講する参加者

（一社）全国建築コンクリートブロック工業会（JCBA）と全国コンクリートブロック工業組合連合会（全国連）は11月12日、東京・四ツ谷の主婦会館・プラザエフで令和６年度の秋季講演会を開催した。当日は国際協力機構（JICA）のテクニカルアドバイザーを務める楢府龍雄氏（北海道建築技術協会）と（一社）首都圏エクステリア協会（MEX）の小林義幸会長の２名を講師に招いて講演を実施した。

挨拶する町田会長

はじめに町田憲昭会長が「今年の秋季講演会にはフィリピンで安全なブロック造の普及に取り組んでいるJICAの楢府様とブロック塀診断を通してブロック塀の安全・安心に取組まれているMEXの小林会長にご登壇頂いてご講演を頂きます。両講演ともキーワードになるのは安全・安心ですが、言葉で言うのは簡単ですが実現するのは容易ではありません。地震が発生する度にマスコミはブロック塀が倒れた映像を流してブロック塀を悪者扱いしている。

だが正しい施工を行なえばブロック塀は簡単に倒れることはありません。その事は2023年10月に兵庫県三木市のE-Defenseで行った実大実験でも証明されている。我々JCBA、全国連ともに安全・安心は１丁目１番地ですから、ブロックの施工に携われる皆さん共に安全・安心の実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたいと思います。

今、ブロック業界は資材価格の高騰や住宅着工数の減少など市場がシュリンクする中、厳しい状況にあるが、そうした時に海外に目を向けるのも一つの道かと思う。そういった意味でもフィリピンでのブロック造の取組みは良いヒントになるかと思います。一社単独ではハードルが高ければ、JCBAや全国連の会員同士で手を組んで取組めばハードルも低くなるのではないか」と挨拶を述べた。

引き続き講演会に移り、北海道建築技術協会のフィリピンCHBプロジェクト実行委員会の楢府龍雄氏が「フィリピンにおける安全なブロック造の普及」と題して講演を行った。講演の中で楢府氏は「7,000以上の島からなるフィリピンは、地震や台風、火山等あらゆる自然災害が毎年のように発生している。特に大きな地震が発生する度に人命や建物に甚大な被害を受けている。都市化が進むマニラ首都圏では、コンクリート造の30階建てのビルでも外壁にはコンクリートブロックが使われているが、低品質で脆弱なために問題となっている。フィリピンではセメントや鉄筋の価格が高いため、どうしてもセメント量を減らしてブロックを製造したり、鉄筋量を減らしてブロックを積んでしまう。

講演する楢府氏

またブロックの成型に関しても日本のようにブロックマシンで製造するのは一

部で未だに手詰めでブロックを成型している。ブロックの品質も低く、簡単に割れたり欠けたりしてしまう。日本のブロックをフィリピンに持ち込んだ際も現地の人達は強度の高さに驚いていました」とフィリピンの状況について述べた。

またフィリピンへの進出について「フィリピンをはじめ途上国にとって、日本のブロック製造技術は非常に魅力があるので、大きなビジネスチャンスになると思います。今、フィリピンでは日本のJIS規格をベースにした品質規格をまとめているが、どうやって規格を厳守して広めるかが課題になるかと思う。是非、日本の知見や技術をフィリピンに広めるためにご支援を頂きたい」とフィリピンへの進出を呼び掛けて講演を終了した。

一旦休憩の後、次の講演に移り首都圏エクステリア協会（MEX）の小林義幸会長が「ブロック塀の信頼性を高めるための取組み～これまでとこれから～」と題して講演した。講演の中で小林会長は「ブロック塀は正しく施工して、定期的にメンテナンスを行なえば決して危険な構造物ではありません。先程の講演で楢府様がおっしゃっていたように日本のブロックは非常に品質が高いと思います。どこへ出しても恥ずかしくない品質で精度も非常に高いです。では何故、地震が発生する度にブロック塀が倒れて問題になるかと言いますと施工不良と経年劣化、この二つがブロック塀が倒れる主な要因です。

ＭＥＸの小林会長

平成30年に大阪で小学校のプールを囲うように設置されたブロック塀が地震によって倒壊して8歳の幼い命が奪われて社会問題となったが、この事故は専門知識を持ったブロック塀診断士の活動によって、未然に防げる事故だったと思います。事故後の検証で鉄筋が基礎から立ち上がっておらず、縦筋が途中で継がれ、また一部では台直しされていた事が判った。恐らく施工基準を理解していない施工者がブロックを積んだものと思われる。

そこでブロック施工における無資格者や建築基準法を遵守しない施工者による不適切施工を撲滅し、ブロック塀に起因する人的被害・間接被害をなくすため、我々はMEXを立上げて安全・安心なブロック塀の普及に取り組んでいます」とMEX立上げの経緯を説明した。

またブロック建築技能士検定について「MEXでは創立当初からブロック建築技能士検定に取組んでいる。東京都では10数年、検定が実施されずにいましたが、MEXの資格講習部会が中心となって東京都職業能力開発協会にもご相談をしながら検定を再開した。以降、賛助会員のブロックメーカーやJCBAの協力を頂いて毎年、検定講習会と技能士検定を実施しています。正しい施工を広めるためにも技能士が果たす役割は大きいと思います」と述べた。

さらにブロック塀診断への取組みについて「MEXでは『もう安全は他人（ひと）まかせにしない』を合言葉にブロック塀診断に取組んでいます。自治体と連携して通学路を中心に診断を進めていますが、残念ながら思ったように改修に繋がらない面がある。ブロック塀は土地所有者の個人資産なので危険だからと言って自治体が撤去出来ない。そこで改修や撤去費用に補助金を拠出しているが、予算の関係もあるので思うように進まないのが現状だ」と述べた。

また「危険なブロック塀を放置して、災害発生時に倒壊すれば人命に関わり、また消防や救急車両の通行の妨げにもなる。災害に強い安心・安全な街づくりには、危険なブロック塀を見つけること、そして正確に診断し、対策を施すことが重要だ」と述べた。

最後に「安全・安心なブロック塀が広まって『地震がきたらブロック塀に隠れて身を守りましょう』と言われるようにブロック塀の信頼性を上げるため、我々MEXだけでは力に限界があるので、JCBAや全国連、技能士会といったブロックに関わる業界団体が一致団結して取組んでいきましょう」と業界の大同団結を呼び掛けて講演を終了した。